

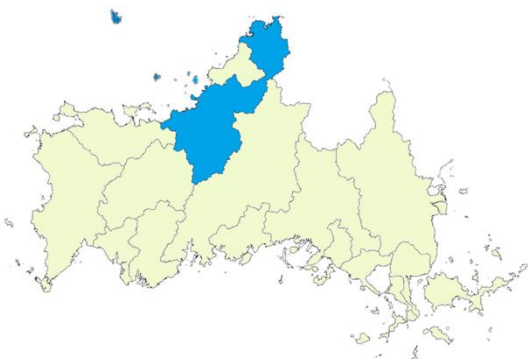
PTAと生徒会がともに考える活動の推進

1 学校地域の概要

| | |
|-------|------------|
| PTA会長 | 伊藤 茂 |
| 学 校 長 | 宇野孝一 |
| 生徒数 | 435名 |
| | (1年143名) |
| | (2年148名) |
| | (3年144名) |
| 家庭数 | 393世帯 |
| 教職員 | 37名 |



本校のある山口県萩市は県北部に位置し、明治維新胎動の地として、季節を問わず多くの観光客が訪れる観光の町である。平成27年には、明治日本の産業革命遺産が世界遺産に登録された。また、今年度は萩阿武一帯が「萩ジオパーク」として日本ジオパークからの認定を受けている。

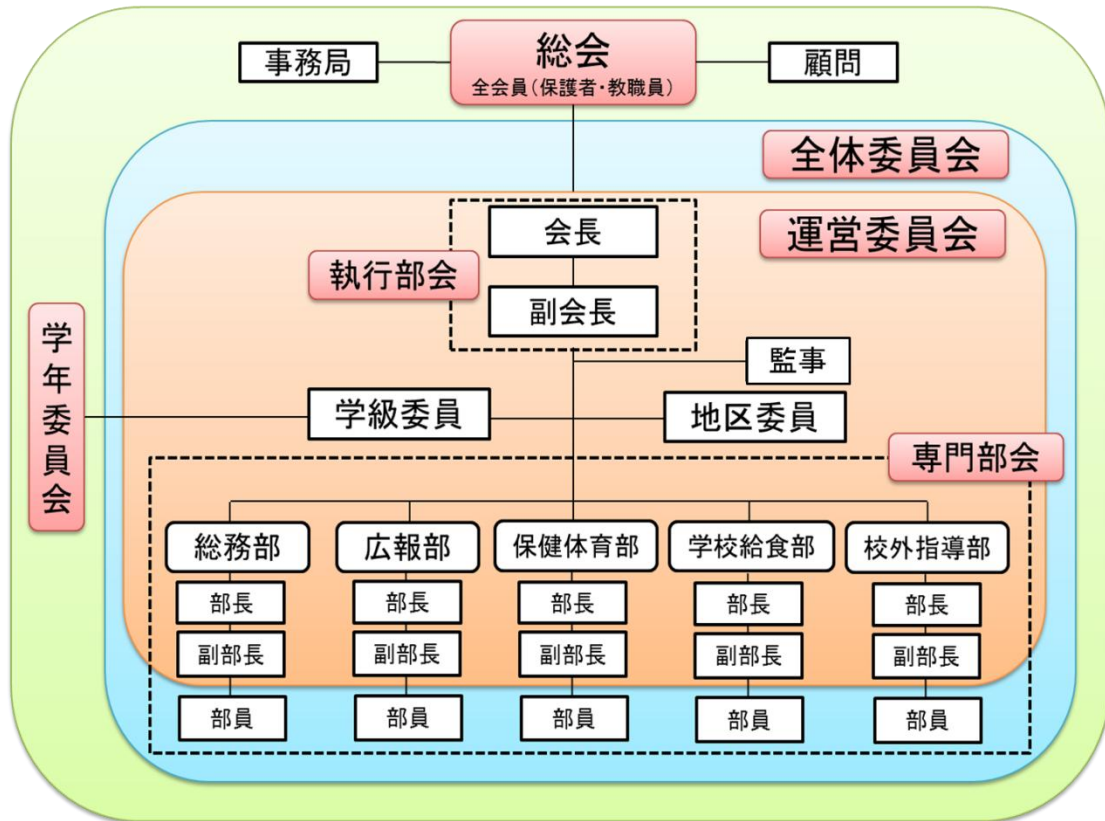


本校は、その萩市の中心部に位置し、明倫小学校（一部）、椿東小学校、椿西小学校区の生徒が通学しており、全校生徒435名の中規模校である。吉田松陰先生を祀った松陰神社のお膝元にある学校ということもあり、「至誠」を校訓とし、学校教育目標を「ふるさと萩を愛し、志に生きる」としている。生徒は明朗活発で礼儀正しく、文武両道、進取の気風をもって学校生活を送っている。

平成26年度から学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールとしてスタートして、今年で5年目になる。保護者や地域の教育に関する期待は高く、PTA活動や学校の地域応援団である「てごの会」の活動もたいへん盛んである（※「てご」は山口の方言で「手伝う」意味）。この「てごの会」は平成19年度からPTA活動の中の「父親・母親委員会」の有志が母体となり、「とりあえず学校を覗いてみよう」と始めた活動をきっかけに、子どもが卒業した後もPTAのOB・OGとして残ることで結成された。現役のPTAから「てごの会」に移行していくことで、子どもたちに関わりのある様々な取組を理解していただいた上で、学校行事やPTA活動に様々な支援をいただいている。

2 P T A組織と主な事業について

(1) 萩東中学校P T A組織図



(2) 各専門部会の主な活動

<総務部>

- ◎ 会員研修の促進
 - ・ 研修視察の実施
 - ・ 各種研修会への参加ならびに研修会の開催
- ◎ 文化祭バザーの企画・運営（学校給食部と連携）
- ◎ 「保護者カフェ」の手伝い
- ◎ 各部名札等の作成
- ◎ エコキャップの回収（インクカートリッジ含む）

<広報部>

- ◎ 号外（5月）・会報「HAGI East」の発行（年3回）
- ◎ 広報誌づくり研修会 山口市教育会館（県PTA連合会主催）への参加

<保健体育部>

- ◎ 学校保健委員会への協力と充実
- ◎ P T A奉仕作業の主催（8月下旬）
- ◎ 学校行事（2年生萩往還等、体育的行事）への協力
- ◎ 体育祭P T A競技の企画、使用後の光塩グラウンドの整備
- ◎ 古紙回収リサイクル活動（毎月第2週をリサイクルウィークとして活動）

<学校給食部>

- ◎ 給食試食会の運営（今年度1回目はP T A総会の日実施）

- ◎ クッキング研修会の実施
- ◎ 文化祭バザーへの協力
- ◎ 食育についての啓発活動
- ◎ 学校給食部だよりの発行（年3回）

<校外指導部>

- ◎ 河川海岸一斉清掃（7月）への協力
- ◎ 地区懇談会の企画・進行
- ◎ 夏季の夜間街頭指導活動～非行防止・生活指導
- ◎ 交通事故防止・不審者対応校外指導・あいさつ運動
- ◎ 学校生徒指導部との連携
- ◎ 地域協育ネット（夏柑ネット）の活動への協力

<学年代表として>

- ◎ 学級PTA・学年PTAの企画・運営
- ◎ 運営委員会への参加
- ◎ 1年部は3学期に修学旅行の業者選定に参加
- ◎ 卒業式での保護者代表あいさつ者の選考・決定
- ◎ 年度末の学年監査

PTA関連行事（平成30年度予定）

| 期 日 | 内 容 |
|---------------|-----------------------|
| 5月13日（日） | 給食試食会 PTA総会 14:10～ |
| 5月26日（土） | 第2学年「萩往還を歩こう」への協力 |
| 6月 1日（金） | PTA役員懇親会 |
| 6月 8日（金） | 「てごの会」 総会及び懇親会 |
| 7月7・14・21・28日 | 土曜夜市夜間巡回指導 |
| 7月 8日（日） | 萩市河川海岸一斉清掃 |
| 7月12日（木） | 第1回学校保健安全委員会 |
| 7月14日（土） | PTAクッキング |
| 8月1・2・3・6・7日 | 萩夏祭り夜間巡回指導 |
| 8月26日（日） | PTA奉仕作業 |
| 9月 9日（日） | 体育祭への協力 |
| 10月 3日（水） | PTA研修視察（湯田中、ゆめ花博） |
| 10月20日（土） | 萩市PTA連合会会員研修会 |
| 10月28日（日） | 文化祭、PTAバザー |
| 11月18日（日） | 人権参観日・公開講座 <オープンスクール> |
| 1月31日（金） | 第2回学校保健安全委員会 |
| 2月 1日（金） | PTA役員懇親会 |
| 3月 2日（土） | PTA作業 |

※ 毎月第2週古紙回収リサイクルウィークを実施
毎月「保護者カフェ」を実施

3 研究テーマ設定の理由

コミュニティ・スクールとして5年目を迎えた本校では、本校PTAのOBの会「てごの会」を中心に、子どもたちにかかわりのある地域の様々な団体や関係機関を巻き込みながら子どもたちの成長を見守ってきた。そうした中で、現役PTA会員の活動の活性化、そして、本校生徒会活動の活性化をはかるために、PTAと生徒会がともに考え、ともに作りあげる活動の充実を図っていきたいと考え「PTAと生徒会がともに考える活動の推進」というテーマを設定した。特に本校行事である人権教育参観日を中心に、本年度は生命（いのち）の大切さを、生徒、保護者、教員がともに考えることのできる具体的な活動をすすめていった。

4 具体的な活動内容

(1) 生命（いのち）に関する講演会の開催

活動の推進のため、11月18日（日）の人権教育参観日に一般社団法人「ここから未来」の篠原真紀さんによるいじめに関する講演会を実施し、生命の尊さについて考える機会をもった。この日は講演会の前に、講演の内容につながる授業が各学年で行われ、多くの保護者が授業の様子を参観した。

| 学年 | 授業の内容 |
|----|----------------|
| 1年 | 私もいじめた一人なのに |
| 2年 | いじめといじりについて考える |
| 3年 | 私の妹 |

授業の様子



講演会の講師の篠原真紀さんは、2010年6月に、当時中学校3年生だった息子さんをいじめが原因の自死で亡くされている。「困っている人を助ける。人の役に立ち優しくする。それだけを目指して生きてきました。」という息子さんの思いを継ぎ、いじめをなくす活動に関わっておられ、今回は「いじめについて一緒に考える」というテーマで、母親としての願い、想い、経験を伝え、いじめについて生徒、保護者と一緒に考える講演を行ってもらった。残された友人からの視点や想いも映像によって伝えられ、その影響も大きかった。

講演会の様子



生徒の感想

- ・今日の講演会は、実際に子供を亡くされた方の話で、心に刺さるものがあった。いじりがエスカレートしていじめになり、それが原因で自殺しているので、相当心の中に抱えているものがあったのだと思う。今日の話聞いて大切だと思ったことは嫌なことはきちんと嫌と言えることだと思う。注意をしたり、止めたりすることも大事な力だと思った。今日話をきっかけに、周りで困っている人がいないかを確認、真正面から相談にのってあげたいと思った。いじめる側は自覚がなく、楽しんでいたり、やられている人にとっては苦痛になっていることを忘れてはいけない。(3年男子)
- ・今日は、このような講演会があったこと、とてもうれしく思っている。15年間で人に対して、いじめのことについて一番考えた。僕はいじめがあったら絶対に止めていきたい。自分も相手も大切に生きていきたい。些細なことでも困っている人がいたら、しっかりと相談にのってあげたい。そのためにしっかりと人とコミュニケーションを取り、勉強し、いろいろなことを吸収して、相手を助けられるような大人になりたい。「いじめ、いじりは絶対ダメ！」学びました。ありがとうございます。(3年男子)
- ・道徳の授業で、いじめだけでなく、いじり、からかいもいじめと変わらない、いじめられている側からしたら、とても苦痛であることを知った。授業の中でいじめは苦痛を感じるけれど、いじり、からかいは苦痛を感じないという意見があったが、私は違うと思った。講演会では、いじめによる自殺で息子さんを実際に無くした講師の方からお話を伺い、実際に起こったいじめによる自殺の深刻さを感じることができた。残された遺族の悲しみ、そして何より亡くなられた息子さんの苦しみを知ると、とても胸が痛くなった。もしこれから、このようないじめで苦しんでいる人を見たら、すぐに助けようと思った。さらにいじめを広げないためにも普段から気をつけていきたい。(2年女子)
- ・私は今回の篠原さんの講演を通して、いじめの恐ろしさを改めて知ることができた。そして、いじめがたくさん起きている現状にとても残念な気持ちでいっぱいになった。篠原さんが言われていたように、いじめられている人を黙って見ているだけではなく、側にいてあげたり、話を聞いてあげたり、少しでもいじめられている人の心に寄り添うことが大切だと感じた。これまでにいじめで尊い命が消えている。人の気持ちをもっと考えることが大切だと思った。(2年女子)
- ・今日の講演会で、いじめられている人の悲しみや恐ろしさなど、改めて知ることができた。暴力や無視などいろいろあるけど、私は悪口が一番いけないと思う、体には傷は残らないけど、心の傷が大きいと思う。いじめによって自殺してしまう人が、日本で年間約600人と聞いて驚いた。その分悲しい思いをした人もたくさんいると思う。ちょっとしたからかいでもいじめにつながってしまうので、今後の生活で、自分の言動が本当にそれでいいのか考えながら生活をしたかった。過去には戻れないので、後悔のない、悲しい思いをする人がいない生活をしたかった。

(2) 生命 (いのち) のメッセージ展の開催 11月16日(金)～11月22日(木)

人権参観日に併せて、その前後の1週間に、校内にて「生命のメッセージ展」を生徒会主体で開催することで、生徒達に命の大切さや当たり前にあるもののありがたさなどを実感してもらいたいと考えた。夏休み中から少しずつ準備を進め、PTAと生徒会で何度か話し合いの場をもちながら、展示、紹介、広報の仕方など、生徒達の考えを生かすことを最優先として取り組んだ。PTAは、外部機関との交渉や金銭的な面をサポートした。

・生命のメッセージ展とは？

犯罪・事故・いじめ・医療過誤・無差別殺人・一気飲ませなどによって理不尽に生命を奪われた犠牲者の等身大の人型パネルを展示し、その胸元に本人の写真や家族の言葉を貼り、足下には「生きた証」の靴を置いて生命の大切さを訴えかけるものである。2001年にスタートし、交通安全・犯罪被害者支援・人権啓発を目的とした各種イベントに活用されている。

①事前打ち合わせ

9月18日(火) 教員とPTA、グリーフサポートやまぐち担当者との打合せを行った。大まかな日程と、生徒会、PTAでどのようなことができるかを検討した。

同日午後より、生徒会執行部役員に、「生命のメッセージ展」の意義についてグリーフサポートやまぐち担当者に説明していただき、PTAとともに今後の予定を立てた。



②生命(いのち)のメッセージ展の周知

ポスターを生徒会が中心となって作成し、全校生徒へ配付するとともに、11月10日(土)～11日(日)に行われたふるさと祭りで来場者に配付して、地域へのメッセージ展の周知を図った。また、生徒会執行部代表が、萩市のコミュニティFM放送局に出向き、「生命(いのち)のメッセージ展」の説明を行い、来場を呼びかけた。





いのち 生命のメッセージ展

つながれ
つながれ
いのち

平成30年11月16日(金)
～22日(木)

いのち 生命のメッセージ展
いのちの想いをつないで そ・し・て 未来へ

“生命のメッセージ展”とは？

殺人・悪質な交通事故・いじめ・医療・一気飲ませなどの結果、理不尽に生命を奪われた犠牲者が主役のアート展です。命の重さ、尊さを訴え、形のない社会を創出し、未来の命を守ることを目的としています。

犠牲者の発する声なきメッセージを受け止めてくださる来場者もまた主役なのです。

※本校される方は、専室にて受けをお願いします。

開催場所
萩市立萩東中学校
3階ランチルーム




〒758-0025
山口県萩市大字土原556-1
TEL: 0838-25-2721
FAX: 0838-25-3721
E-mail: higashi-jn
@edu.city.hagi.lg.jp

③会場準備

11月15日(木)午後から「生命のメッセージ展」の展示準備を生徒会執行部生徒とPTA、グリーンサポートやまぐち担当者で行った。当初は何をどうしたらよいか分からず戸惑っていた生徒達も、丁寧な説明を受け、自ら進んで会場の準備を行った。パネルの胸元にある家族からのメッセージを真剣に読み行っている姿が印象的だった。



④会場の様子

16日(金)から展示を始め、22日(木)までの7日間の間、生徒、教職員、一般の方約200名がメッセージ展を見学し、生徒一人ひとりが、ハート型に切り抜いて用意したメッセージカードに、感想やメッセージを書き込んだ。



⑤会場の片付け

22日(木)16時から生徒会執行部生徒・PTAで片付けを行った。一つ一つの展示パネルに感謝しながら大切に片付けていった。



⑥PTA広報誌「HAGI East」65号での掲載

当日の様子はPTA広報誌にも掲載し、活動の周知を図った。

人権講演会

11/18日 体育館

講師
一般社団法人「こころ未来」
理事 篠原 真紀 様

「はじめに」 「一緒に考えよう」

今回の講演会では、神奈川県より当時中学三年生だった息子さんをいじめによる自死で亡くされた篠原真紀さんにお越し頂き、親子で今の自分を見つめ直すきっかけとなる貴重なお話を聞かせて頂きました。篠原さんは「困っている人を助けたい」「人の役に立ち優しくする」という事を常に目標にしていた心優しく正義感の強い息子さんが残したメッセージを伝えるために活動を始められました。

一言でいじめと言っても①暴力型のいじめ(叩いたり、服を脱がしたり)②SNS操作型のいじめ(死ね、ついでに消えろなどの悪言、無視があり特に②はSNSなど顔の見えない閉ざされた空間で多く行われており、とても問題になっています。身近なSNSでは、友だちをからかう「いじり」も、実はいじめなのです。いじめ「こころ」には相手(者)にする「こと」であり、受け手にしてはとも辛く悲しいことです。軽はずみな言動や行為が、人を苦しめたり人の人生を左右する「こと」になりかねないのです。だからこそ、私たちはひとつひとつの言葉を大切に発していきたく思いました。誰ひとりとして他人の人権を傷付けてはならないし、傷付けられてはならないです。

身近な人が、辛い思いをして帰って来てくれた時は寄り添い、その思いを受け止め、SOSを見逃さず、その声に耳を傾けられる大人でありたいと思えました。そのためにも、口頃から子どもたちが頼りやすい関係性を築いておくことが、大切な命を守る第一歩なのではないでしょうか。



生命のメッセージ展

11/16(金)~22(木) 3F ランチルーム

主催 NPO「いのちのミュージアム」

Q 生命のメッセージ展の鑑賞を通して
生命のメッセージ展を見て、改めて生命の大切さを知りました。また、未来のある生命たちが失われたことに心が痛くなりました。このことを知ったからと、これからの生き方を考え、一瞬一瞬を大切に生きていきたいと思えます。

三好 千晶


Q 生命のメッセージ展から感じてほしいこと
メッセージには、遺品の靴と共に、こういった理由で生命を失われたのが詳しく書かれています。計30名のメッセージの歩んだ人生や思い、家族の声、その全てを受け止めることにはとても大変だと思いますが、生徒一人ひとりが少しでもメッセージを通して自分の生命について考えてくれたら嬉しいです。

松原 雄大

Q 生命のメッセージ展開催に至った背景
萩東中学校では、毎年のように自転車の交通安全が課題として挙げられます。今年、生徒総会での課題について話し合ったとき、「生命の大切さを学ぶ機会をつつた方がいい」という意見があったため、生徒会が企画しました。

松原 雄大

PTAと共に企画運営等を中心となって行った、生徒会のみなさんに聞きました。



いのちをつなげる
赤い毛糸玉

茨木 仁美
メッセージに会いに多くの方にご来場いただきました。



5 成果と課題

毎年、人権教育参観日が行われるが、今年度は、特に生命の大切さについてともに考えるために、「生命に関する講演会」「生命(いのち)のメッセージ展」を行った。生命の大切さについては、分かっているが実感できないことが多いが、今回の講演や展示を通して、生きることの大切さ、生命があることのありがたさを実感してくれたように思う。この活動にはかなりの経費が必要であり、山口県PTA連合会の活動助成金を受けることができ、たいへん助かった。今後も、萩東中学校の教育活動の充実に向けて、こういった活動を定期的に行うことで、PTAとして学校をさらにサポートし、子どもたちの生きる力の育成に力を入れていきたいと考えている。